# 滋賀県の歴史的街道景観

～つなぎ・つながる まちづくり～

# 滋賀の街道と 宿場町のまちなみ

## 湖西

### 北国海道（湖西）・若狭街道など

海津の街道景観【高島市】

【高島市】

**湖岸の石積み**

元禄 15 年（1702）にたびたび大波があり家屋や街道が被害を受けたことをきっかけに築造されたと言われています。

【高島市】

**草葺屋根**

雪の多い湖西の北部では、草葺きの入母屋造りが見られます。現在は、防火上の問題から、トタン等で覆われているものも多くあります。

## 湖南・甲賀

### 東海道・中山道など

針の街道景観【湖南市】

【甲賀市】

**ベンガラ塗り**

ベンガラ塗りは日本古来から行われている塗装法で、湖東や湖南の伝統的な建築物に多く見られます。

【甲賀市】

**曳山蔵**

祭礼に用いられる曳山を収蔵・保管する山蔵は街道景観を構成する建物の中でもひときわ目を引く存在です。

## 湖北

### 北国街道（湖北）・中山道など

塩津の街道景観【長浜市】

【長浜市】

**黒漆喰壁**

黒漆喰壁は、北国街道の宿場町に多く見られます。

【長浜市】

**出し桁造り**

梁または腕木を突出して側柱面より外に桁を出した構造のものです。雪の多い地域では軒にかかる重さを支えるためにこうした造りが見られます。

## 湖東

### 中山道・朝鮮人街道など

八幡の街道景観【近江八幡市】

【愛荘町】

**見越しの松**

当時の佇まいを残す家並みの塀越しにのぞく「見越しの松」が、通りに街道のまちの風格を示しています。

【近江八幡市】

**ヴォーリズ建築**

W.M.ヴォーリズが設計した西洋建築が数多く残され、地域のシンボルとなっています。

※ここでは道の分岐点や港の結節点等を中心に形成された地域一帯を「拠点」と呼んでいます。

# 近世の街道と宿場町

## 東海道近江八景一覧之図

滋賀県立図書館所蔵

## 東海道の瀬田唐橋を渡る大名行列

### 【本陣・脇本陣】

宿役人の問屋や村役人の名主の居宅などが、大名や旗本、幕府役人、勅使などの宿泊所として指定されたものです。脇本陣はこれに準ずる格を有する宿泊所でした。

### 【旅籠】

旅人を宿泊させ、食事を提供した宿泊施設です。江戸時代には街道を往来する多くの武士や旅行者で賑わいました。

### 【問屋場】

人馬の継立、助郷賦課などの業務が行われました。業務をとりしきる問屋、その助役の年寄、さらに人馬の出入りや賃銭などを記入する帳付、人馬に荷物を振り分ける馬指などがいました。

### 【一里塚】

宿駅までの距離を旅行者が知る便宜のために整備された道標の一種で、一里(4km)ごとに築かれました。

### 【道標】

街道を往来する人々の便宜のために、道の分岐点や曲がり角などに建てられました。

### 【見附】

もともとは、城下町の城門などに置かれた見張り番役の施設でしたが、五街道など幕府直轄の官道の要所にも保安警備のために置かれました。

### 【高札場】

幕府や藩の触れ書きなどを墨書した板が掲げられ、人々が情報を得るために集まる場所でした。

# 街道が魅せる5つの表情

滋賀の街道景観は、沿道の「建築物」と「道」、私たちの生活に深く関わり、景観に彩りを添える「水」と「緑」、そして人々の営みそのものである「なりわい」との関係の中で、長い歴史的な経過を経て形作られてきました。街道を歩くと、それぞれのまちにある、昔から今までの歴史の積み重なりを発見することができます。

## 建築物（たてもの）と街道景観

### 近世　今も残る、風土に培われた建築物

生活の知恵と蓄積された伝統技術や美意識に裏付けされた建築物が、近世の街道の面影を醸し出しています。

◎草津宿本陣　写真提供:草津市立草津宿街道交流館

江戸時代の旧姿をよく留めており、国の史跡に指定されています。全国に残る本陣の中でも最大規模を有しています。

◎旧醒井宿問屋場

完全な形で現存する問屋場は全国的にも希少です。市の文化財に指定されています。

◎有川家住宅

「近江名所図絵」などにも描かれ、幕末の和宮降嫁や明治天皇の北国巡幸の折には小休所に充てられました。国指定重要文化財（建造物）に指定されています。

### いま　街道の歴史的変遷を物語る建築物

街道沿いのまちは、時代に合わせて発展してきました。街道を歩きながらその変化を垣間見ることができます。

◎旧豊郷小学校校舎　写真提供:豊郷町観光協会

明治時代から、新しい設計理念による建築物が建築されました。西洋の意匠を取り入れた公共施設なども見られます。

◎西洋建築と和風建築が建ち並ぶ景観

街道沿いの建築物は、さまざまな時代や地域の特性を反映しています。和風建築と西洋建築が混在し、魅力的な景観を形成しています。

## 近世の町家に見られる構造

**煙出し屋根**

屋根の上に突き出したもう一つの小屋根で、台所などの煙を屋外に出すためにあります。

**駒寄せ**

人馬の侵入を防ぐための柵、もしくは馬の手綱をくくりとめたものの名残と言われています。

**出格子**

窓から外へ張り出して作られた格子で、光を採り入れるために街道沿いに設けられています。

**ツシ二階**

大名行列を見下ろすことが戒められたため、二階部分の壁面が低く抑えられ、虫籠窓と言われる通風採光の窓が設けられました。

# 道（みち）と街道景観

## 近世 街道を往来する人々のための利便施設

街道を往来する人々のために整備された利便施設が今も残り、当時の街道の重要性を今に伝えています。

【甲賀市】

### ◎常夜燈

夜道を行く人の旅路を照らし、川の渡しの目印となるなど道中の安全を守っていました。

【草津市】

### ◎高札場

草津宿のほぼ中心、中山道との分岐点付近に設置されています。

【草津市】

### ◎追分道標

中山道と東海道の分岐点に立ちます。火袋を含めた高さは約4mあり、草津市の有形民俗文化財に指定されています。

## いま 訪れる人々へのおもてなしの心

街道を訪れる人をもてなしたいという、地域の人々の心配りをうかがうことができます。

【米原市】

【日野町】

【守山市】

### ◎街灯

常夜燈風の街灯が設置され、街道の風情を感じさせます。

【守山市】

### ◎案内サインや路面標示

案内サインや路面標示など、地域住民や地元の自治体などが設置した道しるべが各地に見られ、来訪者の目を楽しませています。

【長浜市】

### ◎石畳

石畳やカラーアスファルト舗装は、歩いて楽しめるまちの演出をしてくれます。

# 水（みず）と街道景観

## 近世 琵琶湖の水運の盛衰を伝える

かつて琵琶湖の水運は、陸上の街道とつながる重要な「みち」でした。

【高島市】

### ◎木津港跡常夜燈

若狭からの蔵米・貨客をこの地から回漕する湖上交通の要衝でした。

【草津市】

### ◎矢橋港跡

近江八景の一つ「矢橋の帰帆」として知られ、琵琶湖の代表的な渡しとして栄えました。

## いま 美しい水との関わりが織りなす風景

地域の水との関わりが、長い歳月の中で、地域の個性や独特の景観を形成しています。

【米原市】

### ◎地蔵川

居醒の清水から湧き出る清水によってできた川で、貴重な淡水魚「ハリヨ」が生息しています。

【高島市】

### ◎水路とカワト

まちには石積みでできた水路が縦横に走り、地形に合わせて雨水を受け流す先人の苦労と知恵を見て取ることができます。水路は防火機能や消雪機能を併せ持つとともに、カワトやカバタと言われる家庭の生活用水池と直結するものとして大切にされてきました。

### ◎梅花藻

初夏から初秋にかけて水中にウメの花のような白い花を咲かせます。

【彦根市】

### ◎十王水

泉の近くに十王堂があったことから十王水と呼ばれるようになりました。

【高島市】

### ◎共同洗い場（イケ）

共同の洗い場を中心として、イケ仲間を単位としたコミュニティが形成されてきました。

# 生業（なりわい）と街道景観

## 祭 引き継がれる伝統・伝承

街道景観には、そのまちで生きる人々の生活を支えてきた生業や、豊かな生活を彩ってきた祭礼の様子を偲ばせる様々な手がかりが隠されています。

【大津市】

### ◎大津祭

大津祭の本祭で行われる曳山巡行に合わせて、街道沿いの町家では二階の窓の建具が外され、毛せんが垂らされます。曳山からは窓越しに「うまき」が投げ込まれ、まち全体が祭を盛り上げます。

【米原市】

【野洲市】

### ◎地蔵盆

街道沿いには、地蔵堂や祠が随所に見られ、地域のつながり、信仰、歴史を感じることができます。地蔵盆には、街道沿いに「つくりもの」を飾る風習の地域もあります。

## 生活 街道沿いに広がるくらしの風景

畑仕事や山仕事、ものづくりなど、人々の不断の営みによって滋賀の山河や田畑が細やかに手入れされてきたことで、文化的で優しい景観を見ることができます。

【日野町】

### ◎農業

近江盆地を中心とした水田は、人が手を入れ続けることで季節ごとの表情を見せ、菜園や茶畑など地域ごとに変化する生業もまた街道沿いの風景の魅力のひとつです。

【長浜市】

### ◎漁業

旅人にとって景勝地でも難所でもあった湖や川のほとりでは、糧を得るための様々な漁法や運送の便益を図るための施設が作られ、変化に富んだ景観を作り出してきました。

# 緑（みどり）と街道景観

## 近世 往来する人々を癒す街道の緑

人々に安らぎの空間を提供する緑は、街道の目印や憩いの場として機能していました。

【守山市】

### ◎一里塚

一里（4km）ごとに築かれました。多くの場合、塚の上には松や榎など目印になる木が植えられていました。

【甲賀市】

### ◎松並木

東海道をはじめとする街道の両側には松や杉などの並木が植えられました。並木は、夏の暑さや吹き付ける風や雪から旅人を守る役割がありました。

## いま 沿道の暮らしを彩る緑

道沿いに美しく手入れされた生垣や花が道行く人の目を休ませ、新たに設置された多くの公共スペースにも、木々や草花が植えられています。

【米原市】

### ◎ポケットパーク

あずまややベンチとともに、利用者の目を休める植栽が施されたポケットパークが多く見られます。

【湖南市】

【長浜市】

### ◎街道を彩る生垣

街道に建ち並ぶ民家の庭先の緑や生垣、門口に生けられた花が、そこに住む人のまちへの愛着を感じさせ、街道の景観をより豊かなものとしています。

# 名所絵に見る近江の街道

歌川広重の東海道五十三次や名所図会の挿絵が宿場町を冠した作品に何を描いているかを整理することで、東海道沿いの宿場が、江戸時代にどのような特性をもつまちとして認識されているのかをうかがい知ることができます。

## 大津

大津はかつて東海道最大規模の人口を持つ宿でした。逢坂山を超えて琵琶湖に向かう坂を描いたこの浮世絵にも、広い道沿いにおびただしい数の旅籠屋が見えます。

木曾海道六拾九次之内　大津／滋賀県立図書館所蔵

## 石部

石部は「京発ち石部泊まり」と言われ、京まで一日の地点であったことから、旅籠屋が賑わいました。宿で安らぐ人々の様子を描いた作品が多く見られます。

五十三次名所図絵　石部／滋賀県立図書館所蔵

## 草津

草津は東海道と中山道の分岐点、また京に向かう矢橋の船路と瀬田の陸路の分岐点として栄えました。宿場町を見下ろす天井川であった草津川も風光明媚な景勝地としてよく絵に描かれました。

東海道名所図会　二／滋賀県立図書館所蔵

## 水口

水口は街道が3筋に分かれる大きな宿場町で、旅籠の様子や特産のカンピョウ作りの様子がよく描かれました。ここでは道行く客と客引きのやり取りが活き活きと描かれています。

東海道五十三次　水口／滋賀県立図書館所蔵

## 土山

土山は「坂は照る照る鈴鹿は曇るあいの土山雨が降る」と歌われたとおり雨の多い宿場町でした。ここから東国に下るには険しい鈴鹿峠を越えねばならず、旅人や大名行列が雨の中で難渋する様子がよく絵画に取り上げられました。

東海道五拾三次之内　土山／滋賀県立図書館所蔵


Mother Lake 滋賀県 Shiga Prefecture

滋賀県土木交通部都市計画課景観係

〒520-8577 大津市京町四丁目1番1号　【TEL】077-528-4184　【FAX】077-528-4906